Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

8月号—No.315
2021.7.25
（毎月1回25日発行）

【老竹色】年を重ねた老竹のような灰色がかった緑色。

若い竹の黄色みの薄い淡い緑を若竹色、成長した竹の青みがかった明るい緑を青竹色、煙に燻されて茶色くなったものを煤竹色と呼ぶ。竹は、縄文時代の遺跡から竹製品の遺物が出土するほど、日本人にとって古来からさまざまに活用され、愛好されてきた。日用品、茶道具、楽器、武具、竹林の風景、竹取物語、たけのこ料理など、竹文化の恵みは計り知れない。

●目次／*contents*

今月のニュース……2
令和4（2022）年度助成要綱決定
財団からのお知らせ……4
令和4年度「公共ホール現代ダンス活性化支援事業（ダン活支援）」実施団体募集／令和3年度「公共ホール現代ダンス活性化事業（ダン活）」スタート／地域創造フェスティバル2021「地域創造事業 ワークショップ体験＆レクチャー」ダイジェスト映像公開のお知らせ／令和2年度事業報告書 ホームページ公開のお知らせ／理事会、評議員会の開催結果
今月の情報……6
地域通信／オンラインを活用した取り組み／アーツセンター情報
今月のレポート……12
富山県南砺市・射水市　富山県公立文化ホールネットワーク公演事業「川村亘平斎とあだち麗三郎の影絵と音楽」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4183　Fax. 03-5573-4060
URL: https://www.jafra.or.jp/

●2021年9月30日(木)まで申請受け付け

令和4(2022)年度助成要綱が決定

令和4(2022)年度助成要綱決定

「地域の文化・芸術活動助成事業」は、地方公共団体等の自主事業の企画制作能力の向上及び公立文化施設の利活用の推進等を図るため、地域において自主的に実施する文化・芸術活動を支援するものです。

また、「地域伝統芸能等保存事業」は、地方公共団体等が実施する、各地域固有の伝統芸能等の記録・保存・継承事業に対して助成するものです。

募集締切:2021年9月30日(木)

●地域の文化・芸術活動助成事業

[1]創造プログラム

◎一般分

地域の活性化に寄与する長期的展望を有し、発展的・継続的に事業を実施する上で他の地域の参考となるような顕著な工夫が認められる事業(2年もしくは3年間の助成。ただし、各年度の申請を審査した上で決定)。

◎企画制作力向上特別分

都道府県・政令指定都市が行う自主事業の企画制作力の向上や、他施設への波及効果をもたらす単年度の事業。

※創造プログラム(一般分)とは別枠で利用可能。

[2]連携プログラム

地方公共団体等が単独では実施できず、経費削減など連携することにより初めて実施できるもので、3以上の地方公共団体等が連携して、共同で制作する事業や、そのために行う連絡調整に係る事業(原則1年間。ただし、連絡調整に係る事業は、翌年度の公演等の助成も可能)。

[3]研修プログラム

公立文化施設等で企画運営に携わる職員や「地域文化コーディネーター」など地域の文化・芸術活動を担う者のスキルの向上、ノウハウの習得などを目指す実践的な人材育成事業(1年間)。

[4]公立文化施設活性化計画プログラム

公立文化施設の地域において果たすべき役

事業名		分野	事業実施者			
			地方公共団体			指定管
			都道府県	政令指定都市	市区町村	特定指定管理者(※)注1
地域の文化・芸術活動助成事業	[1]創造プログラム(一般分)	音楽 演劇 ダンス 伝統芸能 美術 等	○	○	○	○
	創造プログラム(企画制作力向上特別分)				×	都道府県・政令指定
	[2]連携プログラム				○	○
	連絡調整事業					
	[3]研修プログラム					
	[4]公立文化施設活性化計画プログラム					
地域伝統芸能等保存事業	[1]地方フェスティバル事業	地域伝統芸能等	○	○	○	○
	[2]映像記録保存事業		×	○	○	×
	[3]保存・継承活動支援事業					

●事業の詳細については、実施要綱をご確認ください。各実施要綱および申請書類は、当財団のホームページからダウンロードできます。
https://www.jafra.or.jp/docs/7895.html

※申請書は、都道府県・政令指定都市が管内の市区町村等の分を取りまとめて、地域創造へ提出してください。各市区町村等においては、都道府県等の取りまとめ団体の期限も確認し提出してください。

●「地域の文化・芸術活動助成事業」に関する問い合わせ
総務部　岸
Tel. 03-5573-4164

●「地域伝統芸能等保存事業」に関する問い合わせ
総務部　藁科
Tel. 03-5573-4056

割と、それを実現するための方策を登載した計画を策定する事業。

●地域伝統芸能等保存事業

[1] 地方フェスティバル事業

地方公共団体等が実施する、地域固有の伝統芸能等を保存・継承するための公演事業に対して助成する事業。

[2] 映像記録保存事業

市区町村が実施する、各地域の失われつつあり、かつ記録に残されていない地域固有の伝統芸能等を映像に記録・保存する事業に対して助成する事業。

[3] 保存・継承活動支援事業

市区町村が実施する、地域固有の伝統芸能等の保存・継承のために活動している団体等への支援事業に対して助成する事業。

(参考)令和3(2021)年度「地域の文化・芸術活動助成事業」採択実績

	申請事業数	決定事業数
創造プログラム(一般分)	77	70
創造プログラム(企画制作力向上特別分)	27	25
連携プログラム	35	32
研修プログラム	17	15
活性化計画プログラム	0	0
合計	156	142

(参考)令和3(2021)年度「地域伝統芸能等保存事業」採択実績

	申請事業数	決定事業数
地方フェスティバル事業	22	18
映像記録保存事業	15	13
保存・継承活動支援事業	33	33
合計	70	64

<table>
<tr><th colspan="3">理者</th><th rowspan="2">会場</th><th colspan="3">助成措置</th><th rowspan="2">申請期限</th></tr>
<tr><th>一般指定管理者(※)
注2</th><th>特定公益法人(※)
注1</th><th>実行委員会等
注3</th><th>助成率</th><th>助成の上限額
(1年ごと1団体ごとの金額)</th><th>対象期間</th></tr>
<tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td rowspan="4">原則として、当該申請団体の区域内に所在する公立文化施設</td><td rowspan="2">1／2以内</td><td rowspan="2">1,000万円</td><td>2年
もしくは3年</td><td rowspan="6">2021年9月30日(木)必着</td></tr>
<tr><td colspan="3">都市に係る指定管理者、特定公益法人、実行委員会等 ○</td><td>1年間</td></tr>
<tr><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">2／3以内</td><td>500万円
※連携する事業全体で3,000万円</td><td>1年間</td></tr>
<tr><td>100万円</td><td>事業前年
1年間</td></tr>
<tr><td>2／3以内</td><td>200万円</td><td>1年間</td></tr>
<tr><td>×</td><td>2／3以内</td><td>200万円</td><td>2年以内</td></tr>
<tr><td>○</td><td>○</td><td>○
(保存会も含む)</td><td>原則として、当該申請団体の区域内に所在する公立文化施設</td><td>1／2以内</td><td>都道府県等：200万円
市区町村等：50万円</td><td rowspan="3">1年間</td></tr>
<tr><td rowspan="2">×</td><td rowspan="2">×</td><td rowspan="2">×</td><td rowspan="2"></td><td>2／3以内</td><td>200万円</td></tr>
<tr><td>1／2以内</td><td>30万円</td></tr>
</table>

左表脚注

※
特定指定管理者とは、地方公共団体が1/2以上出資している公益財団法人等で指定管理者の指定を受けているものをいう。
一般指定管理者とは、上記以外の指定管理者をいう。
特定公益法人とは、地方公共団体が1/2以上出資している公益財団法人等で地域創造が特に認めたものをいう。

注1
設置者である地方公共団体の長の副申書を添付。

注2
設置者である地方公共団体の予算を経由して間接的に助成。

注3
地方公共団体が実行委員会等に対して負担する額を助成対象。

財団からのお知らせ

●令和4年度「公共ホール現代ダンス活性化支援事業（ダン活支援）」の実施要綱・申込書等は、当財団ホームページに掲載しています。
https://www.jafra.or.jp/project/dance/02.html
◎申し込み・問い合わせ
芸術環境部　長瀬
Tel. 03-5573-4079
dankatsu@jafra.or.jp

●令和3年度公共ホール現代ダンス活性化事業（ダン活）実施団体
（主会場／アーティスト／日程）
◎Aプログラム
•岐阜県岐阜市（岐阜市文化センター／長井江里奈／11月3日～6日）
•福岡県北九州市（北九州芸術劇場／藤田善宏／11月17日～20日）
•大阪府堺市（フェニーチェ堺／マニシア／2022年1月20日～23日）
•大阪府泉大津市（あすとホール／康本雅子／2022年1月27日～30日）
•神奈川県茅ヶ崎市（茅ヶ崎市民文化会館／藤田善宏／2022年2月2日～5日）
◎Bプログラム
•愛知県豊橋市（穂の国とよはし芸術劇場PLAT／田村一行／7月9日～11日、11月16日～21日）
•福島県白河市（白河文化交流館コミネス／康本雅子／12月2日～5日、2022年1月12日～16日）
◎Cプログラム
•沖縄県浦添市（アイム・ユニバース てだこホール／北尾亘／7月1日～4日）
•岩手県宮古市（宮古市民文化会館／田村一行／9月22日～25日）
•石川県野々市市（野々市市情報交流館カメリア／藤田善宏／12月16日～19日）
•山形県酒田市（酒田市民会館 希望ホール／中村蓉／2022年2月3日～6日）
•山形県鶴岡市（荘銀タクト鶴岡／長井江里奈／2022年2月9日～12日）
•愛知県小牧市（小牧市市民会館／長井江里奈／2022年3月2日～5日）
•徳島県（藍住町総合文化ホール／セレノグラフィカ／2022年3月2日～5日）
◎問い合わせ
芸術環境部　児島・畑
Tel.03-5573-4077・4075

●令和4年度「公共ホール現代ダンス活性化支援事業（ダン活支援）」実施団体募集

公共ホール現代ダンス活性化事業（ダン活）実施団体を対象としたフォローアッププログラムです。ダン活で蓄積したノウハウを活用し、引き続き同様の事業を自主的に行う地方公共団体等に対し、財政的な支援を行います。

募集締切：2021年9月24日（金）必着

◎対象団体
•ダン活のAプログラム（地域交流プログラム）、Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）、Cプログラム（公演プログラム）のすべてを実施した地方公共団体等
•ダン活のAプログラムおよびBプログラム、またはAプログラムおよびCプログラムを実施した地方公共団体等

◎対象アーティスト
公共ホール現代ダンス活性化支援事業登録アーティスト（25組）

◎支援内容
以下の①②に係る経費の1／2以内の額を1年間のみ助成します。
①対象アーティスト等派遣経費
対象アーティスト、アシスタント、テクニカルスタッフ等の出演料等（助成対象上限あり）、交通費（現地移動費を除く）、宿泊費、日当、損害保険料
②公演負担金
公演実施に係る経費（助成対象上限あり）
※助成上限額等の詳細については要綱をご確認ください。

●令和3年度「公共ホール現代ダンス活性化事業（ダン活）」がスタート

地域交流プログラム（アウトリーチ、公募ワークショップ）を実施するAプログラム、市民参加作品を創作し上演するBプログラム、アーティストのレパートリー作品を上演するCプログラムを、年度ごとに選択して継続的に事業の実施が可能な「ダン活」。今年度は14団体（左欄参照）において、7月から順次、各地で事業がスタートしています。

Bプログラムの豊橋市（穂の国とよはし芸術劇場PLAT）では、地元に伝わる妖怪にまつわる民話を題材に、一般公募の参加者と舞踏作品に取り組んでいます。「ホール主催の市民劇に参加している」「妖怪に興味がある」「身体表現にチャレンジしたい」など、さまざまな応募動機をもつ14人の参加者と共に、11月の本番に向けて1回目のクリエーションを行いました。「頭を空っぽにして、力を抜く」「自分で動くのではなく、動かされる」といった舞踏のメソッドや成り立ちを丁寧に解説。アーティストが動きのイメージや大切にしたい思いを伝え、参加者の動きが変化していく様子が印象的でした。

Cプログラムの浦添市（アイム・ユニバース てだこホール）では、「地域のパフォーミングアーツを牽引していく若い世代を刺激し、市民がコンテンポラリーダンスに興味をもつきっかけづくりをしたい」という担当者の思いから、AI（人工知能）を題材にしたアーティストの意欲作を上演しました。また、地元で活動するダンサーをゲストに迎えたアフタートークを開催し、作品の創作過程にふれるとともに、コンテンポラリーダンスの楽しみ方を紹介する機会となりました。公演に先立ち行われた公募ワークショップでは、普段の生活の中から、振付の基となる「ダンスの種」を見つけることに挑戦。参加者は「朝目覚めたら、カーテンを開けて、窓を開けて、風を浴びて、気持ちの良い朝を感じて…」という日常風景や、「落ちる」「ねじる」など動作から想像力を膨らませ、オリジナルの振付を創作しました。

これから実施予定の団体も、ダンス事業を通じた地域コミュニティの活性化を目指し、各地で工夫を凝らしたプログラムを企画しています。ぜひ、お近くで行われるダン活の取り組みにご注目ください。

クリエーションの様子（上：Bプログラム　穂の国とよはし芸術劇場PLAT　アーティスト：田村一行／下：Cプログラム　アイム・ユニバース てだこホール　アーティスト：北尾亘）

●地域創造フェスティバル2021「地域創造事業　ワークショップ体験＆レクチャー」ダイジェスト映像公開のお知らせ

2021年5月に実施した地域創造フェスティバル2021「地域創造事業　ワークショップ体験＆レクチャー」の様子をまとめたダイジェスト映像の配信を開始しました。地域創造事業の派遣アーティストによるワークショップ・アウトリーチ体験を通して、邦楽・演劇・ダンスそれぞれの事業の一端を簡単に紹介しています。公立文化施設や地方公共団体の職員の方のみならず、地域の文化・芸術に携わる皆様に広くご視聴いただき、今後の事業実施等にご活用いただければ幸いです。

また「公共ホール邦楽活性化事業」と「リージョナルシアター事業」は現在、令和4年度実施団体を募集中です。

［募集締切］邦楽：9月24日（金）、リージョナル：8月10日（火）

皆様のご応募をお待ちしております。

◎「地域創造事業 ワークショップ体験＆レクチャー」ダイジェスト映像

https://www.youtube.com/watch?v=im3idB0zTYw

ダイジェスト映像から（上：公共ホール邦楽活性化事業：吉澤延隆、川村葵山／下：リージョナルシアター事業：岩崎正裕）

●令和2年度事業報告書　ホームページ公開のお知らせ

令和2年度の各事業報告書をホームページで公開しています（PDF版を閲覧・ダウンロード可能です）。

•「財団のご案内」→「事業報告書・事業計画書等」

https://www.jafra.or.jp/about/report.html

地域創造が運営しているホームページは、地域の文化・芸術に関する情報をより広く提供することを目的に、当財団の概要・事業紹介のほか、地域創造レターや雑誌「地域創造」、調査研究報告書を掲載し、地域の最新の動向・活動等をお伝えしています。また各事業の実施要綱や申請書、様式をダウンロードすることもできます。

地域における文化・芸術活動の情報収集、公立文化施設の活性化や芸術環境づくりにぜひご活用ください。

●理事会、評議員会の開催結果

6月7日に第136回理事会が開催され、「令和2年度事業報告（案）」、「令和2年度決算書（案）」および「公益目的支出計画実施報告書（案）」が承認されました。その後、今後の当財団の運営等について活発な議論が交わされました。

6月22日には第94回評議員会が開催され、「令和2年度決算書（案）」が承認されました。また、「令和2年度事業報告」および「公益目的支出計画実施報告書」の報告が事務局より行われました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、理事会及び評議員会ともに、出席者には手指消毒、マスクの着用、当日の体温測定等をお願いし、座席の間にはアクリル板の設置を行いました。また、一部の理事および評議員はオンラインにより出席されました。

なお、令和2年度決算書及び事業報告については、当財団ホームページに掲載しております。

●「公共ホール邦楽活性化事業」に関する問い合わせ
芸術環境部　永田・森永
Tel. 03-5573-4064

●「リージョナルシアター事業」に関する問い合わせ
芸術環境部　栗林・田中
Tel. 03-5573-4124

地域通信

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060　Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当　藤原・梅村

●2021年10月号情報締切
8月25日(水)

●2021年10月号掲載対象情報
2021年10月～12月に開催もしくは募集されるもの

●地域通信欄掲載情報について
新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

北海道・東北

●札幌市
札幌芸術の森美術館
〒005-0864　札幌市南区芸術の森2-75
Tel. 011-591-0090　山田のぞみ
https://artpark.or.jp/

アート×コミュニケーション＝キース・ヘリング展

1980年代のニューヨークで一世を風靡したストリート・アーティスト、キース・ヘリング(1958～90)の絵画、彫刻、デザイングッズなど約160点を展示。経済格差やマイノリティ差別にアートの力で立ち向かったヘリングの活動を、コロナ禍で人々の精神的・物理的な距離が拡大しつつある昨今の問題意識と絡めて再評価する。会場には来場者が絵を通じて他者と対話できる「誰でもストリート・アーティスト」コーナーを設ける。
[日程]7月17日～9月26日
[会場]札幌芸術の森美術館

●岩手県北上市
北上市立利根山光人記念美術館
〒024-0043　北上市立花15-153-2
Tel. 0197-72-8304　高橋徳男
(北上市生涯学習文化課)
https://www.city.kitakami.iwate.jp/life/soshikikarasagasu/shogaigakushubunkaka/bunkageijutsukakari/3/index.html

阿吽(あうん)―佐渡の鬼太鼓(おんでこ)と日本のまつり

情熱的な作品を数多く残し「太陽の画家」と呼ばれた利根山光人(1921～94)。没後、画伯が北上市に構えたアトリエと作品の一部が市に寄贈され、平成8年に記念美術館として開館、今年で25周年を迎える。また今年は画伯の生誕100年でもあり、館の企画開催が50回を迎えることから、記念企画として油彩大作《阿吽》を当地で初公開する。そのほか特別展として、市立博物館でも同日程で利根山作品を展示する。
[日程]7月3日～9月2日
[会場]北上市立利根山光人記念美術館

利根山光人　陶壁画《日輪》制作風景(1981年ごろ)

●岩手県盛岡市
盛岡市文化振興事業団
〒020-0045　盛岡市盛岡駅西通2-9-1
Tel. 019-621-5100　長根山明美
https://www.mfca.jp/shiminbunka/

源流の響きを訪ねて～川口成彦 フォルテピアノ・リサイタル

第1回ローマ・フォルテピアノ国際コンクール優勝など、数々の受賞歴をもつ盛岡市出身のピアニスト・川口成彦の公演。現代のピアノのみならず歴史的な鍵盤楽器による演奏活動も展開しており、今回はショパンの存命中に製作された1843年製の仏プレイエル社のフォルテピアノによるオール・ショパン・プログラム。作品と同時代の楽器から奏でられるやわらかな美しい音色で魅了する。
[日程]7月31日
[会場]盛岡市民文化ホール

●宮城県大河原町
えずこホール(仙南芸術文化センター)
〒989-1267　柴田郡大河原町字小島1-1
Tel. 0224-52-3004　星井理賢
http://www.ezuko.com/

えずこシアター第23回公演『宇宙船艦エズコ』

1996年より仙南圏域の住民劇団としてスタートした「えずこシアター」による23回目の演劇公演。感染症予防のため劇場に直接行けないメンバーが参加できるよう、生出演とオンライン出演に対応した舞台を設える。構成・演出を劇団山の手事情社の倉品淳子が手がけ、地球を救うため、意気揚々と宇宙の彼方へ旅立った宇宙船艦のクルーを描いた作品を上演する。
[日程]8月28日、29日
[会場]えずこホール(仙南芸術文化センター)

●山形県寒河江市
寒河江市美術館
〒991-0031　寒河江市本町2-8-3　フローラ・SAGAE3F
Tel. 0237-86-5111　白田歩香
https://www.city.sagae.yamagata.jp/kurashi/shisetsu/bunkashogaigakusyu/sagaemuseum/index.html

鬼海弘雄写真展「INDIA」

第23回土門拳賞を受賞し、2020年に没した山形県寒河江市出身の写真家・鬼海弘雄の追悼展。鬼海は浅草で45年間ポートレイトを撮り続けたことで知られるが、その傍らでインドを度々訪れ、厳しい暮らしの中でも柔らかく豊かな表情を見せる人々の姿を写してきた。本展は、生前鬼海が残した「インドは故郷に似ている」という言葉に敬意

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

を込めて企画されたもの。
[日程]8月7日～9月20日
[会場]寒河江市美術館

鬼海弘雄《睡蓮を持つ少年》、『INDIA』より(1992年) ©Hiroh Kikai

関東

●茨城県水戸市

水戸市芸術振興財団
〒310-0063 水戸市五軒町1-6-8
Tel. 029-227-8111　川崎麻里子
https://www.arttowermito.or.jp/

目指せ“ミュージカル水戸黄門?”

水戸芸術館ではこれまで茨城の魅力あるアーティストを発掘し、舞台出演の機会を提供するとともに、地域の取り組みの舞台化も行い、大きな成果を挙げてきた。今回の公演では、「茨城の魅力は若者だ」という視点から、歌手や俳優、講談師、ダンサー、マジシャン等の異なるジャンルで全国で活躍する若い才能を集め、地元活性化に奮闘する若者たちを描くミュージカル仕立ての演劇作品である第一部と、それぞれの得意技を紹介するライヴショーによる第二部で構成された舞台をつくる。
[日程]7月31日、8月1日
[会場]水戸芸術館ACM劇場

●茨城県日立市

日立市民科学文化財団
〒317-0073　日立市幸町1-21-1
Tel. 0294-24-7755　中野将生
http://www.civic.jp/center/

**夏のひみつ基地
マイベストシート・コンサート**

ピアニスト・田村緑の演奏を聞きながら客席内を歩き回り、場所による音の違いを聴き比べる田村緑オリジナル企画。参加者同士の接触を避けるため、複数のグループに分かれ、導線を一方通行にするなど感染症対策の工夫も。その後のコンサートでは、自分で選んだ座席でゆっくり演奏を楽しむことができる。子どもが楽しく参加できる親しみやすい雰囲気から、本格的なクラシック調へと、演出の変化も見どころ。
[日程]7月31日
[会場]日立シビックセンター

●栃木県宇都宮市

栃木県立美術館
〒320-0043　宇都宮市桜4-2-7
Tel. 028-621-3566　山本和弘
http://www.art.pref.tochigi.lg.jp/

フォトグラフィック・ディスタンス―不鮮明画像と連続階調にみる私と世界との距離―

現代美術から放逐されたかに見えた写真製版などによる「不鮮明な」版画、高精細の写真プリント、写真のような絵画や版画など約90点による三様の多彩なマチエールを比較展示する。高解像度の画像があふれるデジタル時代における、ボケたりブレたりした不鮮明画像の新たな美的価値を確認するとともに、写真固有の連続階調の意義を再考する。
[日程]7月17日～9月5日
[会場]栃木県立美術館

●群馬県高崎市

高崎市美術館
〒370-0849　高崎市八島町110-27
Tel. 027-324-6125　谷津淑恵
https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2014011000353/

メモリーズ　写真、絵画、彫刻でたどる記憶の旅

ステイホームが奨励される昨今、自宅で家族と過ごす時間や食卓の風景など、何気ない思い出や身近なものを見つめ直す企画展。県内外のアーティストの作品や収蔵作品から「記憶」を核とする写真や絵画、彫刻を選出し、「普通と普遍」「ファミリーストーリー」「さまよう記憶」「2つの作品《台所風景》と《Mother》」の4つのテーマで紹介する。
[日程]6月26日～8月22日
[会場]高崎市美術館

●埼玉県富士見市

キラリ財団
〒354-0021　富士見市大字鶴馬1803-1
Tel. 049-268-7788　中出千尋
http://www.kirari-fujimi.com/

モガ惑星　宇宙は遠い記憶のおんがくかい[ドレもソラミミ編]

7つの惑星を大編成のオーケストラによって壮大に描く、ホルスト作曲の組曲『惑星』を主題に、白神ももこ、田上豊両芸術監督の総合演出により、開館20周年に向けて2年にわたり上演する音楽会。宮崎県を拠点に活動する“こふく劇場”の永山智行のテキストによって、人の声や動き、ダンス、楽器の響き、振動、光など多彩な表現方法を、ストーリー仕立てでお贈りする。
[日程]8月21日、22日
[会場]富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ

●千葉市

千葉県立美術館
〒260-0024　千葉市中央区中央港1-10-1
Tel. 043-242-8311　神野有紗
http://www2.chiba-muse.or.jp/ART/

**千葉からはばたく新世代アート展
千葉の新進作家vol.2
100%ORANGE オレンジ・ジュース**

千葉県ゆかりの新進気鋭作家を紹介し、現代アートを身近に感じてもらう展覧会シリーズの第2弾。今回は共に千葉県出身の及川賢治、竹内繭子が結成したイラストレーターユニット・100%ORANGEを取り上げる。イラストを手がけた書籍や広告の現物とその原画、絵本、漫画、アニメーションなどを展示する。作家と共にオリジナルグッズを制作するワークショップも実施。
[日程]7月13日～9月20日
[会場]千葉県立美術館

●東京都世田谷区

せたがや文化財団 生活工房
〒154-0004　世田谷区太子堂4-1-1　キャロットタワー
Tel. 03-5432-1543　中村幸
https://www.setagaya-ldc.net

色覚を考える展 ヒトと動物の色世界

生き物の「色覚」をテーマにした、アートとテクノロジーの融合による体験型展覧会。動物の色覚を再現したVR映像、紫外線や赤外線を利用したアート作品など、色覚の多様性と仕組みについて楽しく体験しながら理解を深めることができる作品を展示する。夏休みの自由研究にぴったりな子ども用ガイドブックの無料配布や、動物の色覚を体験するVR体験イベントも開催。
[日程]7月24日～8月29日
[会場]生活工房ギャラリー

VR体験の様子

●神奈川県横須賀市

横須賀芸術文化財団
〒238-0041 横須賀市本町3-27
Tel. 046-828-1602　五十嵐厚
https://www.yokosuka-arts.or.jp/

フレッシュ・アーティスツ from ヨコスカ　シリーズ60　髙木凜々子ヴァイオリン・リサイタル

「フレッシュ・アーティスツ from

ヨコスカ」は、若手演奏家支援事業の一環として、若く優秀で将来性溢れる演奏家の発掘・支援を目的に開催しているコンサート。自由で広い視野をもつ選定委員による推薦、および横須賀芸術劇場で開催しているコンクールの入賞者、優秀者から出演者を選定している。出演者は自らコンサートを企画し、横須賀芸術文化財団が運営全般で援助している。今回の髙木凜々子は、2020年日本音楽コンクールで第3位に入賞したことがきっかけで出演することになった。
[日程]7月31日
[会場]ヨコスカ・ベイサイド・ポケット

●神奈川県大和市
やまとみらい
〒242-0016　大和市大和南1-8-1
Tel. 046-263-3806　前田直輝
https://yamato-bunka.jp/hall/

仲道郁代「不思議ボール」

ピアニスト・仲道郁代のピアノとお話、絵本作家・長谷川義史のイラストで贈る、ワクワク音楽物語。正体のわからない謎だらけのボールを追いかけながら、田中カレン作曲の、こどものためのピアノ曲集『地球』とともに不思議で素敵な音の世界を体験できる。また、ショパンのミニリサイタルも行う。3歳以上のお子さまから大人の方まで楽しめるクラシックコンサート。
[日程]8月8日
[会場]大和市文化創造拠点 シリウス

北陸・中部

●富山県高岡市・上市町
高岡市民文化振興事業団
〒933-0023　高岡市末広町1-7
Tel. 0766-20-1560　村田美沙子
https://www.takaoka-bunka.com

2021とやま横断！TAKAOKA×DANCE×KAMIICHI　んまつーポス「キリギリスとアリ」

逆さから物事を考えることで新たな価値を創造するコンテンポラリーダンスカンパニー「んまつーポス」と香港のダンスカンパニー「Unlock Dancing Plaza」が、イソップの『アリとキリギリス』の寓話から着想を得て創作したダンス作品。2019年3月に初演され、今回は日本人の振付家・ダンサーを迎えての再演となる。地域住民向けのダンスワークショップを実施し、参加者と共演予定。
[日程・会場]8月1日：高岡市生涯学習センター、22日：北アルプス文化センター

『grasshopper』初演（2019年3月／国際こども・せいねん劇場みやざき）©Ayano SO

●石川県金沢市
いしかわミュージックアカデミー実行委員会
〒920-8580　金沢市鞍月1-1
石川県文化振興課内
Tel. 076-225-1372　北川寛基
http://ishikawa-ma.jp/index.html

2021いしかわミュージックアカデミー（IMA）

国内外の著名な講師陣による世界レベルの若手音楽家の育成と地域音楽文化の振興、石川発の芸術文化を国内外に広く発信することを目的に1998年から開催。今年は、日本人の講師と受講生のみで実施。8月22日には過去のIMA音楽賞・奨励賞の受賞者や国内外のコンクールで優秀な成績を収めた受講生によるコンサートを開催。このほか、レッスンの様子を撮影した動画もオンライン配信する。
[日程]8月20日～26日
[会場]石川県立音楽堂、石川県青少年総合研修センター

●長野県松本市
松本市芸術文化振興財団
〒390-0815　松本市深志3-10-1
Tel. 0263-33-3800　飯野・竹内
https://www.mpac.jp/

TCアルププロジェクト2021『パレード、パレード』

まつもと市民芸術館が主催・制作するTCアルププロジェクトの新作公演。芸術監督・串田和美の呼びかけで始まり、地元松本からの創造発信を積極的に行う団体TCアルプは、数々の演出家と共に作品創作を行ってきた。今回は演出家・杉原邦生と共に、オーディションとワークショップを重ね、ポーランドの前衛的な演出家カントールの独特な世界観を表現した新作に挑む。
[日程]8月25日～29日
[会場]まつもと市民芸術館

●静岡県富士市
富士市文化振興財団
〒416-0953　富士市蓼原町1750
Tel. 0545-60-2510　渡邉聡仁
http://rose-theatre.jp/

ロゼこどもサマーフェスティバル ロゼこどもコンサート

クラシックコンサートに入場できないことが多い未就学児にもクラシック音楽にふれてもらいたいという思いから企画されたコンサート。春と夏の年2回開催しており、未就学児だけでなく、育児で疲れている親御さんにもリラックスできるひとときを提供する。出演者は、活躍の場を提供するという目的もあって、地元で活動している音楽家に依頼している。
[日程]7月31日
[会場]ロゼシアター

近畿

●滋賀県米原市
滋賀県立文化産業交流会館
〒521-0016 米原市下多良2-137
Tel. 0749-52-5111　奥田素子
https://www.s-bunsan.jp/

長栄座伝承会「むすひ」～東西を結び、刻を結び、乾坤を結ぶ～

伝統文化を次世代へと受け継いでいくことを目的として、イベントホール内に特別舞台を設けて行う芝居小屋「長栄座」の10周年記念公演。3年計画で完成を試みる壮大なプロジェクトの1年目。全国から日本を代表する第一線の邦楽奏者や能、落語など伝統芸能演技者が“むすひ”をテーマに集結し、人と人、地域と地域を結ぶことを目的に、新作や和のコラボレーション作品を披露する。
[日程]7月31日、8月1日
[会場]滋賀県立文化産業交流会館

●京都市
京都市京セラ美術館
〒606-8344　京都市左京区岡崎円勝寺町124
Tel. 075-771-4334　後藤結美子
https://kyotocity-kyocera.museum

京都市京セラ美術館開館1周年記念展　上村松園

近代の京都画壇を代表する日本画家・上村松園（1875～1949）の展覧会。当美術館では1974年の生誕100年記念展以来、約50年ぶりの開催。展示される最初期から絶筆までの代表的な作品約100点は、収蔵品のほか、全国50カ所以上の美術館や個人所蔵家から借用したもので、中には新発見となる《清少納言》など、史上初公開の作品も含まれる。松園の孫で日本画家の上村淳之の講演会やギャラリートークなど、関連イベントも実施。
[日程]7月17日～9月12日
[会場]京都市京セラ美術館

▼—今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

●大阪府河内長野市

河内長野市文化振興財団
〒586-0016　河内長野市西代町12-46
Tel. 0721-56-6100　守谷有加
https://lovelyhall.com/

ラブリーホール・オリジナル・ミュージカルVol.10『銀河鉄道と優しい夜』

宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』を題材に、演出・脚本の大塚雅史が新たな世界を描き、3年ぶりとなるオリジナルミュージカル作品として上演する。音楽はミュージカルソー(のこぎり)奏者・作曲家のサキタハヂメが担当し、2007年からホール主催で実施している「ラブリーホール・ミュージカルスクール」の生徒53人が出演し、映像を使った演出など新たな試みにも挑戦する。
[日程]8月8日
[会場]河内長野市立文化会館(ラブリーホール)

●兵庫県西宮市

兵庫県立芸術文化センター
〒663-8204 西宮市高松町2-22
Tel. 0798-68-0206　内田裕久
https://hpac-orc.jp/sko/

佐渡裕とスーパーキッズ・オーケストラ2021

2003年に活動を開始し、今年で18周年を迎えるスーパーキッズ・オーケストラは、高い演奏技術をもつ全国の小学生から高校生までの弦楽器に取り組む子どもたちをオーディションにより選抜し、当センター芸術監督の佐渡裕の指揮・指導により、さまざまな活動をしている。今回は36人が参加し、バーバーの『弦楽のためのアダージョ』などを披露する。
[日程]9月4日、5日
[会場]兵庫県立芸術文化センター

中国・四国

●島根県浜田市

浜田市
〒697-0016 浜田市野原町859-1
Tel. 0855-23-8451　高野訓子
http://www.hamada-kodomo-art.com/

うれC たのC うつくC Cの秘密展

「うれC」「たのC」「うつくC」それぞれのCにちなんだ作品を4つのゾーンに分けて展示。作品の一部は、手をかざしたり、足踏みを利用した非接触の形式で体験ができるほか、手指を消毒した上で実際に触れて楽しむ体験型の作品もあり、美しくユニークな作品を楽しめる。80分の総入替制とし、加えて、土日祝・8月は13の時間枠で完全予約制として開催する。
[日程]7月17日～9月26日
[会場]浜田市世界こども美術館

●島根県安来市

安来市総合文化ホール　アルテピア
〒692-0014　安来市飯島町70
Tel. 0854-21-0101　坂口寛
https://www.artepia.jp/

HAGANE MUSIC2021 第一弾 PAN NOTE MAGIC

故郷の文化や自然を愛し、音楽と伝統を発信し継承したいと願い、世界をフィールドに活動しているアーティストを紹介する「HAGANE MUSIC」。ハガネは安来の象徴であり、伝統でもある。2018年から毎年開催し、4年目を迎える今年の第1弾は日本で唯一スティールパンの本場トリニダード・トバゴ共和国で研鑽を積んだ実力派スティールパンオーケストラ「パンノートマジック」。クラシックからポップス、ジャズまで確かな演奏技術で寸分違わぬ緻密な演奏を繰り広げる。プレイベントとして、8月28日に道の駅「あらエッサ」でスティールパンの演奏と楽器体験が開催される。
[日程]8月29日
[会場]安来市総合文化ホール アルテピア

●岡山市

岡山文化芸術創造
〒700-0822　岡山市北区表町1-5-1
Tel. 086-224-1950　池上はるひ
http://www.okayama-symphonyhall.or.jp/

シンフォニーは友達！2021 シンフォニーエアラインとめぐるベートーヴェン物語

「きく・みる・まなぶ」と、音楽を楽しみながら体験できる「シンフォニーは友達！」シリーズ。今年はベートーヴェンをテーマに開催する。岡山フィルハーモニック管弦楽団コンサート(石崎真弥奈指揮)のほか、指揮・演奏体験、クイズラリーなど、子どもがベートーヴェンに親しみをもてるようなプログラムを多数実施する。同日夜には、シンフォニーホール開館30周年を記念したシリーズ初となる大人向けの公演も行う。
[日程]8月12日
[会場]岡山シンフォニーホール

●広島市

ひろしまオペラ・音楽推進委員会
〒730-0812　広島市中区加古町4-17
Tel. 082-244-8000　春川亮二
http://h-culture.jp/

ひろしまオペラルネッサンス・アンサンブルシアターⅠ『ドン・ジョヴァンニ』

ひろしまオペラルネッサンス公演では、岩田達宗を芸術監督に迎え、これまで培ってきたアンサンブルの魅力をさらに高めてお届けする「アンサンブルシアター」を新たなシリーズとして取り組む。シリーズ第1弾は、人々を魅了してやまない、反逆児にして放蕩者であるドン・ジョヴァンニの魅力を、極上のモーツァルトの音楽とともにお届けする。
[日程]8月21日、22日
[会場]JMSアステールプラザ

●香川県高松市

高松市美術館
〒760-0027 高松市紺屋町10-4
Tel. 087-823-1711　石田智子
http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/takamatsu/

ゆかたと藍の世界

江戸時代の藍染衣装から、絹地に藍染が施された朝廷の女官の衣装、長板中形の技法で精緻な型染めをほどこしたゆかたなど、バリエーション豊かに、ゆかたの歴史と変遷を振り返りながら、ファッションから現代アート作品まで「ゆかた」と「藍」をキーワードに紹介する企画展。ゆかたで来館した人の観覧料が半額となる「ゆかたウィーク」や、オリジナル盆踊りを創作するイベントなど関連イベントも多数開催される。
[日程]7月17日～8月29日
[会場]高松市美術館

九州・沖縄

●福岡市

アクロス福岡
〒810-0001　福岡市中央区天神1-1-1
Tel. 092-725-9317　添嶋麻里
https://www.acros.or.jp/

アクロス・ちびっこコンサート2021　こどものためのオペラ『泣いた赤鬼』

毎年好評の0歳から楽しめるコンサートシリーズ。今年は、昔話『泣いた赤鬼』を題材にしたオペラを、キャスト(西日本オペラ協会)が歌に乗せて、音楽の魅力とともに優しい心や友情の大切さを伝える。舞台と客席が一体化する参加型の手あそび歌があり、今年はコロナ禍ならではの振り付けに変更して開催する。
[日程]8月7日
[会場]アクロス福岡

●佐賀県佐賀市

佐賀県立美術館
〒840-0041　佐賀市城内1-15-23
Tel. 0952-24-3947　野中耕介
https://saga-museum.jp/museum/

**白馬、翔びたつ
―黒田清輝と岡田三郎助―**

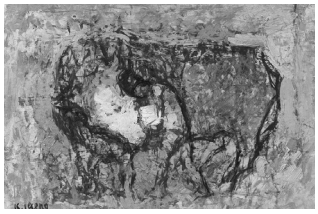
「日本近代洋画の父」とその功績を称えられる黒田清輝と、彼と共に活躍し、後に洋画界の巨匠となった岡田三郎助の展覧会。二人の出会いと交流、そしてそれぞれが目指した美の世界を東京国立博物館所蔵の黒田清輝コレクションを中心とした名品を通して紹介する。出品数は約110点。9月18日には、千葉市美術館長の山梨絵美子氏による記念講演会を行う。
[日程]9月7日～10月17日
[会場]佐賀県立美術館

●長崎県長崎市

長崎県美術館
〒850-0862　長崎市出島町2-1
Tel. 095-833-2110　福満葉子
http://www.nagasaki-museum.jp

長崎の美術7　池野清展

被爆後遺症と闘いながら、戦後の長崎で静物や人物を題材に詩情豊かな作品を描いた洋画家・池野清(1913～60)。彼は長崎の美術振興にも貢献したが、その生涯や画業についてはあまりわかってない。長崎県美術館では開館以来、池野の調査と作品収集を重ねてきた。本展はその成果として36点の油彩や素描を展示し、画業の一端を明らかにする。


池野清《牛と少年》(1958年／長崎県美術館蔵)

[日程]8月6日～11月7日
[会場]長崎県美術館

●長崎県佐世保市

佐世保地域文化事業財団
〒857-0863　佐世保市三浦町2-3
Tel. 0956-42-1111　山元麻美
https://www.arkas.or.jp/

アルカス九十九島音楽祭2021

2004年から始まった市民参加型の音楽祭。今年は、53団体(約600名)の市民が参加する。音楽祭の関連企画として、アルカスSASEBOが誇るジュニアオーケストラによるミュージアムコンサート(佐世保市博物館島瀬美術センター)や、九十九島コンサート(佐世保市民文化ホール)も行うなど、広域にわたり音楽祭を盛り上げる。
[日程]8月21日、22日
[会場]アルカスSASEBOほか

●熊本市

熊本県立劇場
〒862-0971　熊本市中央区大江2-7-1
Tel. 096-363-2233　前川史
https://www.kengeki.or.jp/

**第63回熊本県芸術文化祭
オープニングステージ
バレエ『Never Stop Moving!』**

毎年芸術文化祭のオープニングを飾る企画として制作している舞台公演。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で延期となり、2年ぶりの開催となる。熊本県内で実現できる最高水準の舞台芸術の創造を目指し、今年度は国内外で活躍する振付家・島崎徹を構成・演出・振付に迎え、オーディションで選ばれた熊本県内の若手ダンサーがコンテンポラリーダンスとバレエが融合したステージに挑む。
[日程]8月29日
[会場]熊本県立劇場

●宮崎県宮崎市

宮崎国際音楽祭事務局(宮崎県立芸術劇場)
〒880-8557　宮崎市船塚3-210
Tel. 0985-28-3208　花田昌明
http://www.mmfes.jp/2021/

第26回宮崎国際音楽祭

1996年に始まったクラシック音楽祭。タンゴの革命家アストル・ピアソラの生誕100年にちなみ、作曲家でピアニストの野平一郎の監修・出演による「エクスペリメンタル・コンサート」で幕開けし、世界的ヴァイオリニストのワディム・レーピンと諏訪内晶子による響演なども披露される。また、ワンコインで楽しめる「500円コンサートの日」や、俳人・夏井いつきをゲストに迎えた「Oh! My! クラシック」などのスペシャルプログラムも開催。
[日程]7月31日～8月15日
[会場]メディキット県民文化センター (宮崎県立芸術劇場)ほか

オンラインを活用した取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響により、各地で広がるオンラインを活用した取り組みをご紹介します。
※実施施設の北から順に掲載

●神奈川県

チャレンジ・オブ・ザ・シルバー

神奈川県の共生共創事業の一環として、シニア世代による新たな身体表現を創り出すプロジェクト。国際的に活躍してきたダンサーの安藤洋子が、神奈川県内の60歳以上を対象に、ワークショップやダンス作品の創作・発表を行っている。外出機会が減って運動不足に陥りやすいシニア世代に向けて、オンラインワークショップや、自宅でできるダンスレッスン動画の公開も行っており、未病改善に楽しく取り組むことができる。
[URL]https://kyosei-kyoso.jp/project/#COTS
[問い合わせ]チャレンジ・オブ・ザ・シルバー事務局
Tel. 070-5457-1201

オンラインワークショップの様子

●神戸市

**KAVC PLAY RADIO
こやばなし**

KAVC舞台芸術プログラム・ディレクターのウォーリー木下と、関西を拠点に舞台芸術の制作を行う若旦那家康が聞き手として、演劇関係者や有識者とトークを行うYouTube配信番組。コロナ禍で劇場公演が難しい今だからこそ、舞台芸術に関する情報の発信を新しい形を取りながら続けることで、舞台鑑賞とは違う視点で舞台の面白さを伝えられるのではないかと考え企画された。全36回が配信されており、義足のダンサー・森田かずよや、劇作家・演出家の平田オリザら多彩なゲストが出演。
[URL]https://www.kavc.or.jp/events/6911/
[問い合わせ]神戸アートビレッジセンター(KAVC)
Tel. 078-512-5500

アーツセンター情報

●データの見方
情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い
地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター（ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます）の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄で掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先
地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp

●青森県弘前市
弘前れんが倉庫美術館
〒036-8188　弘前市吉野町2-1
Tel. 0172-32-8950
https://www.hirosaki-moca.jp/
◎2020年7月11日オープン

©Naoya Hatakeyama

明治・大正期に酒造工場として建設され、1997年まで倉庫として使用された建物を改修して生まれた美術館。歴史を重ねてきた風合いを残しつつ、煉瓦建築の耐震性を高め、巨大な倉庫空間を活かした天井高15mの展示室やロフト状になった2階展示室などを設ける。
弘前市ではかねてから市民の美術館整備の要望が多く、煉瓦倉庫でも地域ボランティア主体の現代美術展などが行われてきた。こうした動きを背景に、市は2015年に煉瓦倉庫の土地・建物を取得し、中心街の活性化を狙って美術館運営に乗り出した。運営担当者のエヌ・アンド・エー（株）は、「サイト・スペシフィック（場所性）」という考え方を中心に据える。例えば、作家にこの美術館のために新たに作品制作をしてもらい、展示後に購入して地域に根ざしたコレクションを形成する。こうした取り組みを継続し、美術館が地域の文化創造の拠点となることを目指す。
［オープニング事業］Thank You Memory ―醸造から創造へ―
［施設概要］展示室5室、貸出用スタジオ3室、市民ギャラリー、ライブラリースペース（延床面積3,089m²）
［設置者］弘前市
［運営者］エヌ・アンド・エー（株）
［設計者］田根剛

●山形県三川町
三川町子育て交流施設「テオトル」
〒997-1321　三川町大字押切新田字桜木8-1
Tel. 0235-64-8310
https://www.town.mikawa.yamagata.jp/town/teotle/teotleopen.html
◎2020年7月1日オープン

子育てしやすい環境の充実と定住人口の拡大を図るため、地域交流、子育て支援、学童保育の3つの要素を合わせた複合施設として開館。
地域交流を目的とした「集いのエリア」は町民の演奏会や発表会等、さまざまな活動の拠点として多目的ホールを完備。子育て支援機能を有する「歩みのエリア」には、ガラス張りで開放感のある交流スペース、大型遊具が設置されたあそびのスペースなどがあり、子育てに関する相談や保護者同士の交流等を促進し、支援機能の充実を図っている。「学びのエリア」では、学習室の一部を子どもたちの学習の場として活用するなど、学童保育機能を備えている。
一般利用者はもちろん、子育て世代や児童の利用等、各年代が利用する場として、“ハートフル”な拠点施設を目指していく。
［オープニング事業］竣工記念公演
［施設概要］多目的ホール（350席）、会議室1・2、うんどう兼ジョブサポートスペース（132m²）、あそびのスペース1・2、学習室1・2・3
［設置・管理・運営者］三川町
［設計者］本間利雄設計事務所

●和歌山県海南市
海南nobinos
〒642-0002　海南市日方1525-6
Tel. 073-483-8739
https://kainan-nobinos.jp/
◎2020年6月1日オープン

中心市街地の賑わいの創出を目的として、旧市役所跡地に開館した複合施設。図書館機能を核としながらも、市民活動・生涯学習活動支援機能、子育て支援機能、広場のほか、スターバックスコーヒーも出店しており、従来の図書館のイメージにとらわれず、普段読書が目的でない人を図書館に呼び込む、本当の意味での読書促進を目指す「新しいカタチの図書館」となっている。
図書館には、子どもがぶつかっても怪我をしないクッション性の高い書架に約5万冊の絵本を開架し、児童書のコーナーや小説、実用書、マンガなど親しみやすい図書を中心に揃えた一般書コーナーがある。また、発表会やイベントなど幅広く利用できる約250席のノビノスホールをはじめ、防音機能、ボルダリングのある多目的室、会議室のほか、音楽練習室も備えており、多様なニーズへの対応が可能。
今後も地域、利用者と共に成長し、賑わいを創出する海南市のシンボルとなる施設を目指す。
［施設概要］図書館、ノビノスホール（約250席）、多目的室3室、会議室2室、音楽練習室
［設置者］海南市
［管理・運営者］TRC海南
［設計者］（株）東畑建築事務所

＊地域創造レターは再生紙を使用しています

▼—今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

富山県南砺市・射水市

富山県公立文化ホールネットワーク公演事業

「川村亘平斎とあだち麗三郎の影絵と音楽」

ヘリオスでのパフォーマンス

●川村亘平斎とあだち麗三郎の影絵と音楽『おやまのかみのおおげんか』『おじぞうさまがふってきた！』
[出演]川村亘平斎(影絵)、あだち麗三郎(音楽)、kauai hirótomo(音楽)、KUDO AIKO(音楽)、ゲスト：ジャック・リー・ランダル＆広田郁世(影絵)、WS参加者
[日程・会場]2021年6月12日：南砺市福野文化創造センター 円形劇場ヘリオス、13日：射水市大門総合会館 大ホール

＊1　1991年から毎年夏に開催。200人以上のボランティアが企画・運営。市民によるスティールパン等の楽団も誕生。

＊2　縄ヶ池伝説の龍女と南砺市を流れる庄川、井波別院瑞泉寺がモチーフ。龍女と人間の間に生まれた青年・藤太がオオムカデ退治をする物語。

険しい山に囲まれた富山県の南砺市に対し、日本海に面した射水市。山と海——2つの土地の伝承をフィールドワークした2本立ての新作影絵パフォーマンス「川村亘平斎とあだち麗三郎の影絵と音楽」が、南砺市福野文化創造センター・ヘリオスと射水市の大門総合会館で上演された。これは、ワールドミュージック・フェスティバル「スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド」(＊1)で知られるヘリオスが、「地域色のあるオリジナル作品をつくりたい」と、同フェスの出演者だった影絵師で音楽家の川村と、ミュージシャンのあだちに声をかけた企画の第2弾だ。

バリ島で古典影絵とガムランを学んだ川村は、2014年以降、地域の人々と影絵芝居を創作する活動を展開してきた。ヘリオスでは2019年に『NAWAGAIKE(縄ヶ池)』(＊2)を創作。今回は、富山県公立文化ホールネットワーク公演事業として射水市にも声をかけ、『南砺編　おやまのかみのおおげんか』『射水編　おじぞうさまがふってきた！』の2本立てとし、お互いを知り合う地域交流プログラムを実現した。

●

舞台には巨大スクリーンが張られ、左右にパーカッションを中心としたたくさんの楽器がセットされていた。パフォーマンスは、生身の川村がカッパ(影)に扮した狂言回しと、あだち、kauai hirótomo、ルーツ音楽の歌唱法を探求した独特の声の響きをもつボーカルのKUDO AIKOによる生演奏で展開する。

川村に加え、富山で15年以上にわたって影絵ユニットとして活動するジャック・リー・ランダル＆広田郁世が影絵人形を操り、時に高さ数メートルにもなる大影絵や、ワークショップに参加した親子が制作して操るユニークな生き物が入り乱れる。日本の民話的な物語と、バリの影絵の造形と、モダンな音楽がミックスした不思議な世界が目の前に出現していた。

川村がリサーチのために現地に滞在したのは4日間だが、地元の人の案内で題材を意欲的に収集。縄文遺跡がたくさん残る南砺市では埋蔵文化財センターのスタッフから出土品の説明を受け、五箇山と霊山立山に囲まれた地域を歩き回った。射水市では町のあちこちに祀られた地蔵を発見し、新湊博物館で流行り病を癒す隕石や、ガメ宮(人を沼に引き込む亀を海底に封じ込めたもの)などの伝承について聞いた。また、南砺ゆかりの版画家・棟方志功の孫である石井頼子さんとも面談してアイデアを膨らませた。

そうして出来上がったのが、ふたつの霊山が高さを競って大喧嘩し、封印されていた大蛇が解き放たれる『南砺編　おやまのかみのおおげんか』、霊山の喧嘩で射水市まで飛ばされた岩が巨大なお地蔵さまになって天から降ってくる『射水編　おじぞうさまがふってきた！』という2つのパフォーマンスだった。

射水の出身でもある広田さんは、「地蔵や亀などの伝承については知っていたが、外の人の目を通して見ると新鮮な発見がある。改めて伝承の中にある大切なこと(誰かが地域のために活動してきたこと)を、今回のようにファンタジーの中に取り入れる大事さを感じた」と話していた。

スキヤキのプロデューサーでヘリオスの館長代理兼制作部長のリバレ・ニコラさんは、「地域への理解を深めながら創作や公演のやり方を学べるので、若いスタッフの勉強や育成の機会にもなっている。今後も継続したいし、影絵人形はヘリオスで預かることになったので、展示などでも活用したい。地域の劇場の役割として、こうしたレパートリーを劇場のないところにも持っていけるようになれれば」と話していた。

地域の人・歴史・場所が創作を通してひとつの形になったような企画だった。

(ライター・河野桃子)

川村亘平斎(影絵師・音楽家)コメント

ワークショップでは、オリジナルの影絵人形を自作してもらっている。絵が得意でなくても影絵はモノクロだし、影を映して動かしながら作るので、自然にアイデアが生まれる。出演するときも、スクリーンがあるから人前に出るのが恥ずかしくないし、映った影を見ながら操作できるので遊んでいるようにパフォーマンスできる。

バリの影絵は古典をやっているように思われるかもしれないが、そうではなく、影絵師は古典に登場するキャラクターを使ったオリジナルをつくるのが伝統。だから僕もいろいろ調べた上で、「こういう出来事があったんじゃないか？」と想像を膨らませ、新たな物語をつくっている。

フィールドワークをしていると、関係ない土地で同じような出来事が起きていると気づくことがある。そうした各地に残る伝承が、1960年代に日本が一斉に都市化したことで断絶してしまった。以前のことを知っている方がいるうちに、民話や神話を集めておかないと本当にわからなくなる。そのために、今、各地でフィールドワークし、自分の中にいろんな土地の物語を繋げた曼荼羅のような地図を描いているところだ。